

## 発達心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

この授業は、人間の生涯発達を機軸に捉え、胎児期～若い成人期までの発達に関する心理的事実の理解、加えて発達上に特別な心理的支援ニーズが必要な場合の基本的考え方について理解できるようにする。また同時に、発達の原理、法則、理論に関しても概説的な解説を行うことで、学生自身や身近な人の理解、社会や文化、更に歴史的状況への視野の広がりへの関心の拡大を考える上での基本を理解することを目指す。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生涯発達とは
2	乳児が初めて出会う世界
3	愛着理論と母子分離不安
4	幼児の世界観
5	人生を決定する児童期の人間関係
6	児童期における発達上の問題
7	思春期挫折の危機とアパシー
8	青年期の人間関係
9	働き盛りの精神衛生
10	燃え尽き症候群と自殺念慮
11	加齢現象と認知症
12	認知症高齢者の心理的特徴
13	長寿を全うするための健康
14	臨床発達心理学の視点 アイデンティティ拡散
15	臨床発達心理学の視点 発達障害

### 【履修上の注意事項】

人間の生涯発達について、事前・事後の学習を積み重ねること。

### 【評価方法】

1. 受験資格の確保 (2/3以上の出席：学則参照)
2. 期末試験受験による評価 (60点以上：学則参照)
3. 試験結果 100点満点で評価  
\*再試験は実施しない。

### 【テキスト】

『ヒューマン・ディベロップメント』青柳肇・野田満編著 ナカニシヤ出版

### 【参考文献】

『発達心理学ハンドブック』東・繁多・田島編集 福村出版 1996年『心理学基礎事典』上里監修 至文堂 2002年 \*その他、講義過程において紹介する

## 教育原理

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

- 1) 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
- 2) 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
- 3) 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育とは何か／講義の目的・概要と進め方について
2	教育の目的と本質
3	教育と人間発達（1）発達のメカニズム
4	教育と人間発達（2）レディネスと教育
5	教育と社会／教育の理念についての理解
6	諸外国における教育の歴史と思想（1）古代の教育
7	諸外国における教育の歴史と思想（2）中世・近世の教育
8	諸外国における教育の歴史と思想（3）近代の教育
9	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（1）ヨーロッパ
10	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（2）アメリカ進歩主義教育
11	わが国における教育の歴史と思想（1）戦前
12	わが国における教育 歴史と思想（2）戦後
13	教育における家庭の役割
14	社会のなかの子どもの変化
15	今日の子どものめぐる諸問題（いじめ、不登校などをめぐる状況と学校教育の在り方）

### 【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。  
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。  
 事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

### 【評価方法】

原則として学期末試験（70％）、小レポート（30％）を評価の対象とする。

### 【テキスト】

石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、2013年。

### 【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

## 教育行政論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 3年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

- 1 教育行政の基本概念を理解し、教育行政をめぐる諸問題について自分の考えを持つことができる。
- 2 日本国憲法及び教育基本法から導き出される教育の基本原則、及びその意義を理解する。
- 3 学校教育における具体的な事例について、その多くが教育行政と密接に関連していることを理解する。

### 【授業の展開計画】

学校教育における様々な場面において、事例や判例を基に、学校教育に関する様々な場面や課題を想定し、その実態と問題点に視点を向けさせる。

次に、その根拠となる関連法規や資料を判断基準として、実際の場面ではどのように判断すべきかについてのディスカッションを中心に展開する。

### 授業計画

第1回：学校教育制度の目的と構造

第2回：教育行政① 教育委員会の組織・機能、教職員の人事権

第3回：教育行政② 学校選択制の拡大、教育振興基本計画

第4回：学校組織① 校長の職務と権限と職員会議の機能

第5回：学校組織② 校長、副校長、教頭の資格要件とその緩和

第6回：学校組織③ 養護・栄養・図書教諭等の職務

第7回：教職員① 教員の身分と職務・サービス

第8回：教職員② 指導力不足の教員の人事管理と教員の研修体系

第9回：教職員③ 教員免許更新制と教職大学院の役割・機能

第10回：教育課程① 学習指導要領の法的拘束力と基準性

第11回：教育課程② 学習指導要領とその改訂

第12回：教育課程③ 教科書採択制度

第13回：児童・生徒への対応① 登下校時を含む安全の確保と現代的課題

第14回：児童・生徒への対応② 学校事故における法的責任

第15回：児童・生徒への対応① 懲戒の範囲と体罰、出校停止

定期試験 試験期間中に実施

・知識・理解（基本的事項や学習指導の理解）、学んだことを学習指導に生かす姿勢

### 【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

### 【評価方法】

ディスカッションへの参加40%、課題提出20%、期末試験40%で評価する。

追試験は実施しない。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献】

毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

## 教育課程論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

- 1) 学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。
- 2) 教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。
- 3) 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程とは：教育課程の意義
2	教育の目的と教育課程の編成原理
3	教育課程の歴史的展開と教育方法
4	日本における教育課程の歩み：戦前
5	日本における教育課程の歩み：戦後
6	教育課程の法と行政
7	学習指導要領の特徴と変遷（1）経験主義から系統主義、教育の現代化
8	学習指導要領の特徴と変遷（2）「ゆとり教育」と新学力観、「脱ゆとり教育」
9	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法
10	児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画
11	学校教育課程全体のマネジメントおよび学習指導要領に規定する教育課程のマネジメント
12	授業計画（学習指導案）の作成
13	授業計画（学習指導案）の発表と相互検討
14	教育課程の経営と評価
15	今日の教育課題と教育課程：「学力」をどう捉えるか

### 【履修上の注意事項】

上記の計画は、受講者の数及びニーズに応じて一部変更する場合があります。事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。

### 【評価方法】

期末試験70%＋リフレクションペーパー30%を原則とし、総合的に評価する。

### 【テキスト】

広岡義之『はじめての教育課程論』ミネルヴァ書房、2016年

### 【参考文献】

『学習指導要領』

## 保健体育科教育法 I

担当教員 則元 志郎

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

教科教育学は教員免許に養成に関わる重要な授業科目であり、本科目はそのうちの保健体育科教育を扱う。保健体育科教育は基礎的内容であり、主に保健体育科の目的・内容、教育課程、社会変化と学校体育、運動の特性論、教授－学習過程論、学習指導要領、授業計画の立て方・考え方、体育評価論などについて学習する。到達目標として、保健体育科教育法について保健体育教員の立場から、各論を理解したうえで体育実践を指導できるようになる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	保健体育科教育 総論
2	目的・目標論（保健体育科の目的・目標の変遷と現代的課題）
3	内容論1（学習指導要領における内容の捉え方）
4	内容論2（教科内容の基準と系統化）
5	教材論1（教材と教科内容の関係）
6	教材論2（教材研究と教材化の視点）
7	運動領域論（学習指導料における運動領域の捉え方）
8	指導方法論（学習としての体育、「めあて学習」の見方・考え方）
9	学習形態論（グループ学習の基本的要素と構成）
10	学習計画論（年間計画、単元計画、指導案の考え方）
11	授業づくり論1（授業づくりの視点）
12	授業づくり論2（授業づくりの実際）
13	学習評価論（評価基準と評価内容、指導と評価）
14	教師論（保健体育教師の資質と能力）
15	授業全体の総括

## 【履修上の注意事項】

授業前に配布した資料（テキスト）を読み、次回の内容について予習しておくこと。さらに、授業後には復習も行うこと。

## 【評価方法】

課題レポート（5回）100%

## 【テキスト】

授業時にテキストとなる資料を配布する。

## 【参考文献】

竹田・高橋・岡出編著『体育科教育学の探求』大修館書店、文部科学省『学習指導要領 保健体育編』学校体育研究同志会編『体育実践に新しい風を一教科内容を軸に体育実践を創る一』大修館書店

## 保健体育科教育法Ⅱ

担当教員 末松 大喜

配当年次 3年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

- ①健康観の変遷を理解し、国民健康の現状と課題を説明できる。
- ②高校生期における保健学習はどのようにあるべきかを説明できる。
- ③高校生期の「心と体を一体としてとらえる」とした教科目の中身を理解し、模擬授業を実践できる。

## 【授業の展開計画】

保健体育科の教科目標である「心と体を一体としてとらえる」という内容を正しく理解する。また、高校生期にとって「おもしろい保健の授業」を展開することができる、保健教科に秀でた保健体育科教師としての力量を高められるように進めたい。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の進め方、受講する際の留意事項、保健教科目の性格等）
2	健康科学概論（食事、運動、休養とヘルスプロモーションの意味）
3	高等学校保健体育科教師としての健康哲学
4	高等学校学習指導要領保健体育の教科目と指導案
5	高校生期の発育の特徴
6	高校生期の発達の特徴
7	精神の健康
8	保健科教育の授業づくり
9	課題レポート（自分が受けた高校生期の保健科教育）バズセッションと全体討議
10	安全教育・安全管理・救急法
11	授業書方式による「環境と健康」
12	授業書方式による「環境と食品の保健」
13	授業書方式による「労働と健康」
14	飲酒・喫煙・薬物乱用防止
15	思春期と健康、結婚生活

## 【履修上の注意事項】

各時間の講義課題を明確にして、出席すること。過去受講した健康教育を振り返り、何が良くて、改善すべきことは何かについて、考えておくこと。

## 【評価方法】

期末試験（40%）、課題レポート・授業参画態度（60%）

## 【テキスト】

最新「授業書」方式による保健の授業 保健科教材研究会 編 大修館書店  
高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 文部科学省（平成21年）

## 【参考文献】

現代保健学習・指導事典 保健科教材研究会 編 大修館書店  
高等学校学習指導要領 文部科学省（平成21年）

## 教育方法論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

- 1 多様な学習者に配慮して「教授と学習」という視点に立った学習指導の方法と技術を習得することができる。
- 2 学び方や思考の発展性に配慮した学習指導案の作成方法を理解し、作成することができる。
- 3 学習や学校生活における様々な場面に応じた指導方法について理解することができる。
- 4 授業効果を高めるための方法としての教育情報機器の利用について理解し、活用することができる。

### 【授業の展開計画】

授業の概要

まず、教育における方法論的な立場から、教育方法の歴史や組織面(形態)及び改革等について学ぶとともにその成果の評価について学習する。

次に、学習指導案を作成するために必要な多面的な視点をもとに、学習指導案を作成するための知識と技術を習得する。

さらに、教育効果を高めるために、各種情報機器の必要性を理解するとともに、その有効活用ができる知識と技術を習得する。

授業形態は講義とするが、ペア等によるディスカッションを随所に取り入れ、特に、資料(動画や図表等)から読み取る目を育てることに力を置く。

授業計画

第1回：授業のねらいと展開の方法

第2回：教育方法の歴史

第3回：教育方法の種類と特質

第4回：教育方法の改革と課題① 学力形成の方法論

第5回：教育方法の改革と課題② 学習の形態と、教師と子どもの関係性

第6回：教育方法の改革と課題③ 学習の成果とその評価

第7回：学習指導の実際① 学習指導案作成の手順と目標設定

第8回：学習指導の実際② 指導計画と本時のねらい

第9回：学習指導の実際③ 授業準備と学習活動における指導上の留意点

第10回：学習指導の実際④ 思考の流れを育てるための学習展開の方法

第11回：教育情報機器の活用① 教育情報機器の例とその効果

第12回：教育情報機器の活用② 五感に訴える資料の条件

第13回：教育情報機器の活用③ プレゼンテーションの作成方法

第14回：具体的な場面における指導方法の実際① (生徒指導や生活に関する指導)

第15回：具体的な場面における指導方法の実際② (健康や安全に関する指導)

### 【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

### 【評価方法】

ディスカッションへの参加40%、課題提出20%、期末試験40%で評価する。

追試験は実施しない。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献】

毎回、資料(学習プリント)を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。

## 教育相談（カウンセリングを含む）

担当教員 古賀 由紀子、三津家 律子

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

教育相談とは、一人一人の子どもの教育上の諸問題について本人または、保護者、教師などにその望ましい在り方について指導助言することを意味しているが、特に学校生活において不適応を訴える児童生徒、保護者に対して主として個別援助するとき、これらの悩みや問題行動に対してどのように理解し、具体的に対応していったらよいのか説明できる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育相談の考え方・教育相談の位置づけ、生徒指導と教育相談（古賀）
2	児童生徒理解の基礎Ⅰ（教育相談の内容、発育発達、疾病等の一般的理解）（古賀）
3	児童生徒理解の基礎Ⅱ（個別的理解とその方法）（古賀）
4	カウンセリングの意義（三津家）
5	カウンセリングの理論（三津家）
6	カウンセリングの技術（三津家）
7	問題行動の理解（三津家）
8	学校でできる遊戯療法（三津家）
9	学校でできる認知行動療法（三津家）
10	発達促進的教育相談（三津家）
11	教育相談の事例研究、支援会議（三津家）
12	家族への援助、教師へのコンサルテーション（三津家）
13	教育相談の担い手（学級担任、教育相談担当者、養護教諭、スクールカウンセラー他）（古賀）
14	教育相談の機関と援助事業（古賀）
15	支援的ネットワーク、教育相談の課題（古賀）

### 【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。  
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

### 【評価方法】

レポート等20%、期末試験80%により評価する

### 【テキスト】

特にテキストはなし。随時プリントを配布する。

### 【参考文献】

「改訂版心理臨床の基礎」小野けい子編著 放送大学教育振興会  
「学校でフル活用する認知行動療法」 神村栄一著 遠見書房



## 教職実践演習（中・高）

**担当教員** 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

**配当年次** 4年

**開講時期** 第2学期

**単位区分** 要件外

**授業形態** 演習

**単位数** 2

**準備事項**

**備考**

### 【授業のねらい】

使命感や責任感に裏打ちされた教員としての確かな実践的指導力を身につける。  
具体的には次の四つの事項（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童・生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項）に関する知識・技術を修得し、それに基づいた実践が行えるようになる。

### 【授業の展開計画】

- I 教師に関する研究(教育実習自己評価用紙を基に自己省察を行う)  
自己省察(教育実習自己評価用紙を基に)
- II 学校教育におけるエコロジカルアプローチ(事例研究や対人援助技術を学び最新の子どもの発達に関する理解を深める)
  - (1)事例研究(保護者地域社会との連携・協働について)
  - (2)学校に関連した対人援助技術を学ぶ(保護者との関係性の構築の仕方等に関するロールプレイングを含む)
  - (3)最近の知見に基づく子どもの発達に関する理解を深める。
- III 授業研究(実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究を行う)
  - (1)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その1)
  - (2)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その2)
  - (3)実習生による模擬授業の実施と現職教諭を交えての授業研究(その3)
- IV 生徒指導(生徒指導の在り方及び不登校といじめ問題・ロールプレイングを含めた事例研究を行う)
  - (1)生徒指導の在り方について(「生徒指導上の諸問題の現状について」)を基に
  - (2)事例研究(不登校といじめ問題等)
  - (3)事例研究(ロールプレイング含む)
- V 児童・生徒理解(玉名市内のスクールボランティア協力校・学校支援・市内協力高校でのフィールド学習を実施する)
  - (1)スクールボランティアを活用したフィールド学習
  - (2)スクールボランティアを活用したフィールド学習
  - (3)スクールボランティアを活用したフィールド学習
  - (4)フィールド学習の振り返りと評価
- VI 総括

### 【履修上の注意事項】

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

### 【評価方法】

①授業態度（30%）、②ポートフォリオを通しての評価（50%）、外部講師による評価（20%）

### 【テキスト】

### 【参考文献】

**教育実習（事前事後指導を含む）**

**担当教員** 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

**配当年次** 4年

**開講時期** 通年

**単位区分** 要件外

**授業形態** 実習

**準備事項**

**単位数** 5

**備考** 中学校教諭1種免許状取得希望者

**【授業のねらい】**

本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、中学校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。

**【授業の展開計画】**

## 1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際的な指導

## 2. 教育実習（4年次、3週間）

実習校の指導のもとで実習を行う

## 3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導一体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

\*なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変則的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。

**【履修上の注意事項】**

中学校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

**【評価方法】**

実習校による評価（60%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（授業態度等）（10%）、事前事後指導におけるレポート等による評価（20%）。

なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

**【テキスト】**

特に使用しない。資料を配布する。

**【参考文献】**

適宜紹介する。

**教育実習（事前事後指導を含む）**

**担当教員** 嶋 政弘、柴田 恵子、山下 忍、古賀 由紀子、山本 孝司、吉岡 久美、水間 宗幸、古江 佳織、新 裕紀子

**配当年次** 4年

**開講時期** 通年

**単位区分** 要件外

**授業形態** 実習

**単位数** 3

**準備事項**

**備考** 高等学校教諭1種免許状取得希望者

**【授業のねらい】**

本学における教職課程で学んだ理論をもとに、学校現場における教育の実践的経験を通して、高校教諭に必要な資質や専門性、実践的指導力をもつことができる。

**【授業の展開計画】**

## 1. 事前指導（3年次～4年次実習前）

教育実習の意義・心得、実習の内容や過程の理解、教育現場の事前理解、指導案の作成、実習に必要な知識・技術・技能の獲得、及び実習校の確定とその手続き、実習校との打ち合わせにかかわる実際的な指導

## 2. 教育実習（4年次、2週間）

実習校の指導のもとで実習を行う

## 3. 事後指導（4年次、実習後）

実習に関する反省と指導一体験内容の相互共有により実習経験の充実・深化をはかる。また終了レポートの作成、自己評価、体験発表、討論会等を行う。

\*なお、事前事後指導については、別途指導計画表を配布する。とくに3年次は専門の実習の関係で、事前指導の日程は、変動的に組まれるので注意すること。初回のガイダンスで詳細に説明する。

**【履修上の注意事項】**

高校教諭1種免許状の取得希望者のみ。履修に当たっては教職課程履修細則が適用されるので、よく確認すること。

事前事後学習については担当者の指示に従うこと。

**【評価方法】**

実習校による評価（60%）、実習録・実習終了レポートによる評価（10%）、事前事後指導における平常の評価（授業態度等）（10%）、事前事後指導におけるレポート等による評価（20%）。

なお、事前事後指導、本実習のすべてにおいて、無断欠席は認められないので厳重に慎むこと。

**【テキスト】**

特に使用しない。資料を配布する。

**【参考文献】**

適宜紹介する。

## 保健体育科教育法Ⅲ

担当教員 堤 公一

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本授業のねらいは、中学校保健体育教員として必要な実践的指導力を養うことである。そのための到達目標は、以下の通りである。

- 1 中学校保健体育科の授業構成・学習指導・授業分析・評価などの基本的な考え方を理解することができる。
- 2 学習指導要領において取り上げられている体育分野領域「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「ダンス」「武道」についての授業づくり・授業研究の方法を理解することができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業の目標と概要、成績評価について）
2	体育のこれまでとこれから（学習指導要領と保健体育科の変遷）
3	体育の目標・カリキュラム・学習内容（運動の特性と分類）
4	体育の学習指導法（体育におけるICT利活用）
5	体育の授業づくり①（体育授業の条件）
6	体育の授業づくり②（体育授業と評価）
7	体育の授業づくり③（体育授業のリフレクション）
8	体育の授業づくり④（体づくり運動・器械運動・陸上競技・水泳・球技・武道・ダンス・体育理論）
9	体育の模擬授業実践演習①（学習指導案の作成）
10	体育の模擬授業実践演習②（学習カードの作成）
11	体育の模擬授業実践演習③（模擬授業実践「ねらい1」）
12	体育の模擬授業実践演習④（模擬授業実践「ねらい2」）
13	体育の模擬授業実践演習⑤（模擬授業実践「ねらい1」リフレクション）
14	体育の模擬授業実践演習⑥（模擬授業実践「ねらい2」リフレクション）
15	総括リフレクション（模擬授業実践演習レポート作成についての検討）

## 【履修上の注意事項】

授業回数の2/3以上の出席がない者は、試験を受験することができない。教室での講義だけではなく、授業づくりの演習として模擬授業を行うので、運動のできる服装および屋外屋内シューズを準備すること。授業づくりの演習では授業づくり担当者を割り振るので、その役割をきちんと果たすこと。

授業以外の学習として、授業前にテキストを読むなどして、各回の予定内容について予習を行うこと。授業後には講義内容についてのリフレクションや整理を行い復習をしておくこと。

## 【評価方法】

試験50%、模擬授業実践演習レポート（学習指導案・学習カード・模擬授業実践・リフレクションを含む）50%

## 【テキスト】

文部科学省（2008）「中学校学習指導要領解説 保健体育編」東山書房

高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編著（2010）「新版 体育科教育学入門」大修館書店

## 【参考文献】

北尾倫彦監修（2012）「平成24年版観点別学習状況の評価基標準と判定基準中学校保健体育」図書文化

高橋健夫（2003）「体育の授業を観察評価する」明和出版

## 保健体育科教育法Ⅳ

担当教員 末松 大喜

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

- ①健康とは何か、時代と共に健康に対する考えがどのように変遷したのかについて説明できる。
- ②現代社会の健康状況を把握し、中学校期における保健学習の進め方について説明できる。
- ③中学生期の「心と体を一体としてとらえる」とした教科目標を理解し、模擬授業を实践できる。

## 【授業の展開計画】

保健体育科の教科目標である「心と体を一体としてとらえる」という内容を正しく理解する。また、中学生にとって「おもしろい保健の授業」を展開することができる、保健教科に秀でた保健体育科教師としての力量を高められるように進めたい。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の進め方、受講する際の留意事項、保健教科目の性格等）
2	健康学概論
3	中学校保健体育科教師としての健康哲学
4	中学校学習指導要領保健体育の教科目標と指導案
5	中学生期の発育の特徴
6	中学生期の発達の特徴
7	健康と環境
8	良い保健科の授業と悪い保健科の授業
9	保健科教育教材内容の構造化
10	課題レポート（自分が受けた中学校期の保健科教育）バズセッションと全体討議
11	仮説実験授業、授業書方式と保健科教育
12	健康と環境
13	保健科教育と安全教育
14	保健科教育と喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育
15	感染症予防と慢性疾患の予防

## 【履修上の注意事項】

各時間の講義課題を明確にして、出席すること。過去受講した健康教育を振り返り、何が良くて、改善すべきことは何かについて、考えておくこと。

## 【評価方法】

期末試験（40%）、課題レポート・授業参画態度等（60%）

## 【テキスト】

新版 保健の授業づくり入門 森昭三 和唐正勝 編著 大修館書店  
新しい体育の授業づくり 勝亦紘一 家田重晴 著 大日本図書

## 【参考文献】

仮説実験授業のABC 板倉聖宣 著 仮説者  
中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省（平成20年）

## 道徳教育論

担当教員 山本 孝司

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

- 1) 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
- 2) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）
2	道徳教育の本質
3	学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び内容
4	道徳性 1（道徳教育の原則からみた道徳性）
5	道徳性 2（コールバーグの道徳性発達理論）
6	日本における道徳教育の史的展開
7	学校における道徳教育の現状（新基本法と学習指導要領）
8	「特別の教科 道徳」について
9	道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴
10	道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計
11	道徳授業の指導計画
12	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業 1）
13	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業 2）
14	道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方
15	道徳教育に関する今後の課題

### 【履修上の注意事項】

授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。  
 参加的態度で臨むこと。  
 教育界における「常識」をラディカルな次元に立ち返り疑ってみる鋭敏なセンスを養って欲しい。  
 事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

### 【評価方法】

原則として学期末試験（70％）、小レポート（30％）を評価の対象とする。

### 【テキスト】

石村秀登・末次弘幸編著『道徳教育の理論と実践』大学教育出版（2018年3月）

### 【参考文献】

『「道徳」授業に何が出来るか』／宇佐美寛／明治図書

## 生徒指導・進路指導論

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

1) 生徒指導の意義や原理を理解する。2) すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。3) 児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校外の連携も含めた対応の在り方を理解する。4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。5) 全ての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。6) 児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程における生徒指導の位置付け
2	各教科、道德教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導の意義及び重要性
3	集団指導・個別指導の方法原理
4	生徒指導体制と教育相談体制
5	校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組
6	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方
7	生徒の自己の存在感が育まれる場や機会の設定の在り方
8	生徒指導にかかわる法令（校則、懲戒、体罰、停学・退学等）
9	暴力行為、いじめ、不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応
10	生徒指導における学校と家庭、地域との連携の在り方（専門機関との連携を含む）
11	教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け
12	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方
13	キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義
14	キャリア形成の視点に立った自己評価の意義の理解
15	キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法

## 【履修上の注意事項】

授業へは参加的態度で臨むこと。  
事前にテキストを読み、事後はテキスト、配布資料を読み返しておくこと。

## 【評価方法】

課題レポート（40%）＋学期末試験（60%）

## 【テキスト】

広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論－「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版。

## 【参考文献】

授業内で適宜紹介する。

## 教職論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 1年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

- 1 教員の身分と役割, 義務と裁量権について理解する。
- 2 最近の, 教員を取り巻く状況や課題について理解する。
- 3 教員に関わる教育制度, 学校の組織構造, 学級経営の現代的問題理解を通して, 求められる新しい教師像と専門性について考察することができる。

### 【授業の展開計画】

授業の概要

授業においては, 各回のテーマに関連のあるニュース等を資料にするなど, 具体的な事象を基に考える場面づくりを設定する。

また, ペアによるディスカッションを随所に仕組んだ講義を中心に進め, 提示または配布した資料を基に自分の考えを導き出すような展開にする。

授業計画

- 第1回: 教職とは何か 教師の役割と使命感
- 第2回: 教職の意義と教員の立場
- 第3回: 教員の服務義務 (法的義務と現状)
- 第4回: 教育をめぐる現状と求められるもの
- 第5回: 社会と教員に求められる資質能力
- 第6回: 校務分掌と教員の多様な仕事
- 第7回: 教師間の仕事量の均衡と公務員制度
- 第8回: 一人一人の児童・生徒を守る教師
- 第9回: 児童・生徒のための学校に
- 第10回: 学校・家庭・地域の役割と連携
- 第11回: 教員の資質の向上と研修制度
- 第12回: 教員の専門性の向上 免許更新制と教職大学院
- 第13回: 教員の不祥事とその背景にあるもの
- 第14回: 任命権者と教員採用の在り方
- 第15回: 教職への道

### 【履修上の注意事項】

- 1 ペアを中心としたディスカッションをするため, ペアをつくって着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので, 常に自分の考えを持って参加する。

### 【評価方法】

ディスカッションへの参加40%, 課題提出20%, 期末試験40%で評価する。  
追試験はしない

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献】

毎回, 資料 (学習プリント) を配布する。  
参考資料については, 授業中に随時提示する。



## 特別活動論

担当教員 山本 孝司

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

- 1) 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。
- 2) 特別活動の指導の在り方を理解する。
- 3) 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する（指導計画作成、評価を含む）。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	学習指導要領における特別活動の目標及び内容
2	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連
3	学級活動・ホームルーム活動の特質
4	児童会・生徒会活動の特質
5	クラブ活動の特質
6	学校行事の特質
7	教育課程全体における特別活動の指導の在り方
8	特別活動における取組の評価・改善活動
9	合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義と指導の在り方
10	特別活動における家庭・地域住民や関係諸機関との連携の在り方
11	「総合的な学習の時間」の意義と教育課程において果たす役割
12	学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標
13	各教科等と関連させた「総合的な学習の時間」の年間指導計画の作成
14	探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て
15	総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点

## 【履修上の注意事項】

学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事等の特質や内容について実践事例や受講生の経験等も活用しながらより具体的な講義を展開していきたい。  
事前にテキストを読み、事後には復習をしておくこと。

## 【評価方法】

レポート40%、期末試験60%

## 【テキスト】

広岡義之編著『新しい特別活動』ミネルヴァ書房、2015年。

## 【参考文献】